

東 雲

第四号

8年(1996) 9月



南部広域行政組合
島尻教育研究所

目 次

- 随 想 「閑中忙」 所長 宮 城 恒 彦…………… 1
- 修了者及び後期入所予定者、指導講師一覧…………… 2
- 今、なぜ「生きる力」重視の教育か 島尻教育研究所運営委員
大里中学校校長 金 城 光 男…………… 3
- 研修を終えて 島尻教育研究所 教 育 研 究 員…………… 5
- 教育講演（レジメより）「集団不適應の背景といじめへの対応策」
登校拒否適應指導学級文部省講師
倉 淵 泰 佑……………13



「閑 中 忙」

所長 宮 城 恒 彦

離島の学校に勤めていた時の教え子たちのクラス会に案内された。土木関係の会社の社長となって、小さいながらも堅実な経営をしている一人の教え子から、次のような話をきいた。

久しぶりに古里に帰り、釣りに出かけた。無人島の釣り場で糸をたれながら会社に電話をした。便利な世の中になりましたと言う。そして「先生、昔のような魚の釣り方はもう時代遅れですよ。一度に何尾もかかってくるような仕掛けがあり、さらに、餌もヤドカリでは食いつきが悪いですよ」と得意気に語っていた。「せっかく楽しみに行ったのに、どうして会社へ電話なんかするんだい」と聞いたら「会社のことが気になって……」と真顔になった返事が返ってきた。「君の名は」の「忘却とは忘れ去ることなり、忘れ得ずして、忘却を誓う心のかなしさよ」の名言を思い出して苦笑いした。

太公望の楽しみは、結果もさることながら、釣りに行くまでの過程にもある。準備の時から夢は大きくかけめぐる。釣り具や仕掛けの点検、餌の選択、釣り場の検討などをしながらも心はすでに海へと飛んでいる。コバルト・ブルーの空の下で、日によって様々な色合いを見せてくれる海面をバックに海鳥たちが飛び交っている。水平線に入道雲が湧き立っている。肌に心地よい潮風は磯の香りをいっぱい吸い込んでいる。そういう風景の中で雑念を払って無心に一本の釣り糸を見つめている。ここに釣りの醍醐味がある。しばしの間でも「無我の境地」になって釣りをする。頭の中を空にして明日の英気を養うために自分の趣味に没頭するのではなからうか。

最近、所かまわず携帯電話で話をしている人たちによく出合う。車の運転をしながら、集会場等の中で、また、道を歩きながら、突然大きな声で後から呼びかけられて振り向いたら声の主は自分の手のひらの電話に話をしていた。「忙中閑あり」の言葉が逆になり「閑中忙」の様相を呈する情報化時代となった。

学習指導要領が全面的に改訂されるという。そのことを審議するための教育課程審議会がスタートした。文部大臣は次のことを諮問している。「完全学校週5日制の下で、各学校がゆとりのある教育活動を展開し、創造性を育て一人ひとりに生きる力を育成するための教育内容の在り方について検討する」。この文中で「ゆとり」という言葉に濃度の高さを感じ、かきかっかが符せられている「生きる力」が浮き出てくる。激しく変化していく社会の中でこの諮問文に出ている「ゆとり」と「生きる力」の二つの言葉をわれわれはどのように受けとめて教育に携わっていけばよいか、重みのある意義を持っている。かつて、教育の現代化と言われ、教育内容を現代社会の進歩した新しい状況へ引っ張りあげることが必要だと言われたが、その後の改訂で「ゆとりと充実」がキーワードとなった。

今回の改訂でも「ゆとり」という言葉が注目を引く。週五日制の学校教育になり、スリム化されるであろう教育内容の中で、児童生徒がどのような「ゆとり」をもって「生きる力」を養っていくか、私たちに新たな決意が迫られる。「義務教育で必要な知識は、新聞が読めたり、買い物ができる能力ぐらいで十分で、困っている人がいたら助けるとか、必要最小限の人間性や感性を身につけることが大切だ」と断言している教課審の一人の委員の談話は考えさせられる発言である。五日制の実施については、日本PTA全国協議会の調査によると賛成している保護者は三割に充たないと新聞は報じている。また、県内では週休二日制を実施している企業は増えつつあるという。しかし、総就業者の6割を占める民営企業就業者の父母たちが、この学校五日制の意義を正しく理解し、意識を改革しない限り、改訂の目ざす人間像へ近づくには相当の時間を要するであろう。少なくとも、釣り場まで電話を携帯しない。キャンプなど屋外活動にファミコンやラジオなどを持ち込まない。情報の無の空間と時間の中で過ごす体験を子どもたちにさせる機会を多くし、さらに、大人たちが「閑中忙」の心のゆとりのない生活を真の「忙中閑」に取りもどすことが、子どもの「生きる力」の核づくりになると信じている。

平成8年度 前期 教育研究修了者及びテーマ一覧

期数	氏名	勤務校	教科・領域	研 究 テ ー マ
前期	1 當 銘 ノリ子	豊見城村立 長嶺幼稚園	幼稚園教育	幼児が充実した園生活を過ごすための援助の工夫 —身近な素材や環境にかかわりながら—
	2 玉 城 美慧子	佐敷町立 佐敷幼稚園	幼稚園教育	幼児の発達を促すための環境構成の工夫 —戸外における遊具の活用を通して—
	3 徳 村 政 宜	糸満市立 西崎小学校	学 級 経 営	一人一人を生かす学級経営 —学級経営年間指導計画の作成を通して—
	4 桃 原 アサ子	糸満市立 光洋小学校	特 別 活 動	学校生活へのより良い適応を目指す援助のあり方 —登校拒否児、場面かん黙児の事例を通して—
	5 大 城 典 子	糸満市立 高嶺小学校	学 級 経 営	一人一人の活動意欲を育てる学級経営 —学級活動における集会活動の計画・実践を通して—
	6 金 城 桂 子	糸満市立 喜屋武小学校	国 語	思考力を育てる学習指導の工夫 —一人学習を生かした物語文の授業実践を通して—
	7 佐久本 広 志	東風平町立 東風平小学校	社 会	主体的に学ぶ学習指導の工夫 —謝花昇の教材化を通して（6年歴史）—
	8 金 城 正 子	豊見城村立 豊見城中学校	英 語	異文化コミュニケーション能力を育てる指導法の工夫 —言語や文化についての学習指導を通して—

平成8年度 指導講師及び担当教科

指導講師	教科・領域	所 属 等	指導講師	教科・領域	所 属 等
金 城 恵 子	幼稚園教育	県教育庁義務教育課 指導主事	川 平 洋 三	英 語	島尻教育事務所 主任指導主事
親 泊 明 美	音 楽	翔南小学校教諭	仲 里 好 子	道 徳(小)	光洋小学校校長
糸 満 旦 男	学 級 経 営	糸満市教育委員会 学校教育課課長	兼 本 清 弘	国 語(中)	島尻教育事務所 指導主事
大 城 守	特 別 活 動	座安小学校校長	嶺 井 光 政	算 数	島尻教育事務所 指導主事
大 城 早智子	国 語	喜屋武小学校教頭	高 良 清 吉	特 別 活 動	豊見城村教委 指導主事
座 安 政 侑	社 会	島尻教育事務所 指導主事	儀 間 朝 廣	僻地教室	上田小学校校長
安次嶺 敏 雄	教育相談	真壁小学校教頭			

平成8年度 後期 入所予定者及びテーマ一覧

期数	氏名	勤務校	教科・領域	研 究 テ ー マ
後期	1 上 原 則 子	豊見城村立 伊良波幼稚園教諭	幼稚園教育 言語領域	経験したことや考えたことを言葉で表現し、相手の話す言葉を 機構とする意欲や態度の育成
	2 屋比久 トシ子	糸満市立 高嶺幼稚園 教頭	幼稚園教育 表 現	地域にある民話や童歌を通して心の豊かな子どもに育て るにはどうしたらよいか。
	3 金 城 欣 也	糸満市立 糸満南小学校教諭	国 語 科	一人一人が意欲的に取り組む物語文の指導
	4 與那嶺 政 秀	大里村立 大里北小学校教諭	算 数 科	自ら学ぶ意欲を育てる学習指導の工夫・改善 —問題解決の過程における自己評価活動を通して—
	5 久 米 洋 子	糸満市立 喜屋武小学校教諭	道 徳	豊かな心と主体的行動力を育てる指導の工夫 —生命尊重、思いやりの心の育成を通して—
	6 玉 城 智 子	知念村立 知念小学校 教諭	特 別 活 動	主体的に活動する子どもを育てる指導の工夫 —学級活動の中の体験学習を通して—
	7 又 吉 かおり	糸満市立 潮平小学校 教諭	僻地教育 (算数)	複式学級における教科指導 —算数科の指導を通して—
	8 平 良 幹 子	糸満市立 糸満小学校 教諭	特 殊 教 育	L・D（学習障害）児の理解と指導
	9 座嘉比 幸 枝	南風原町立 南風原中学校教諭	国 語 科	表現力を養うための効果的な指導法の工夫 —話す活動を中心に—



今、なぜ「生きる力」重視の教育か

大里中学校校長 金城 光 男

前回の教育課程の改定では、人間としての「生き方」「在り方」指導が重視され、今回では「生きる力」の育成が重要視されている。自分自身をふりかえり「生きる力」はどこでどのように培われたかと考えた時、戦中・戦後の義務教育を過した自分にとって、特に学校教育の中で、人間として「生き方」の指導や「生きる力」の育成が意図的に指導されていたというような記憶はない。

当時は、経済的、社会的にもきびしい時代であり、生きて行くためには、誰もが働かなければならない時であった。そこでまずしい社会環境にあっても、学校、家庭、地域が、それぞれの役割を認識し、連携し、子ども達は常に切磋琢磨して日々の生活を過ごしていた。そのため児童、生徒は「生活体験」「社会体験」を通して自ら「生きる力」が培われたものと思われる。

では、今なぜ学校教育における「生きる力」の育成か、今日の児童、生徒を取り巻く社会環境は、経済的豊かさの中で物質主義、家族の少子化にともない、保護者の養育態度の変化、自己中心的風潮の増大など、児童・生徒の健全育成を図る上では、必ずしも好ましい状況ではない。そのような中であって、今日の児童・生徒は社会性の欠如、人間関係が希薄な中で、さまざまな生活体験、自然体験、社会体験などが不足のままに成長し、人格形成上、ゆがみが生じているとの問題点が指摘されている。

そのため、学校教育における「生き方」の指導、「生きる力」の育成が重要視されているものと思う。

「生き方」、「生きる力」の指導、育成は学校の全教育活動を通して行うことが基本であるが、「生きる力」は諸々の体験をとおして培われるものである。そのためには、学校教育においては「Learning by doing（なすことによって学ぶ）」という特別活動の実践、充実が重要である。なぜならば特別活動は集団活動をとおした実践的な教育活動であり、心身の調和のとれた発達や個性の伸長をはじめ、自主的、実践的な態度、人間としての生き方、在り方の自覚、自己を生かす能力、社会的資質の育成を目指すものであり、「生きる力」を育成するための学校教育に占める役割は大なるものがある。

特別活動が、今日の児童・生徒の課題指摘に対して十分応え得る教育活動であることを、どの教師も理解し、それらを自分の担当する教科同様に重視することが大切である。

指導に当たっては、新しい学力観に伴った特別活動で生徒が体得すべき資質・能力が身につくようになる。例えば、

- ・自己受容、自己理解の上に立って、自己の興味・関心、よさや可能性を追求し、個性を生かして豊かな自己実現を図ろうとする意欲や態度の育成
- ・集団の一員として自己の役割を考え、友人と協力して当面する諸課題を自主的・実践的に解

決していくための思考力、判断力、表現力等の育成が重要である。

そこで各教師は「なすことによって学ぶ」という特別活動の特色、又はＪＲＣ活動のモットーである「自ら気づき、考え、実行する」という実践活動を「ボランティア活動」や「生きる力」につなげ、これらが児童・生徒の人格形成上重要な資質・能力を育成することを再認識して特別活動をはじめ、全教育活動にあたることが大切であると考えている。

島尻教育研究所 運営委員



6カ月の研修を振り返って

豊見城村立長嶺幼稚園教諭 當 銘 ノリ子

私達幼稚園教諭は、長期研修の機会が少なく教育研究所への入所は長い間の「夢」でした。今回、念願が叶えられて第4期教育研究員として入所できたことを誇りに思います。宮城恒彦所長から数々の励ましの言葉を頂いたとき、緊張するとともに、頑張らなければという気持ちになりました。「さび落とし」「出会いを大切に」「相手の長所を発見し認める」「自己に厳しく、そして謙虚に」「幅広い見識と弾力性のある考え方」等、教育研究員としての心構えについて講話を頂きました。また、所長から心温まる手作りの色紙、小冊子等頂き、ますます研修への励みになりました。

1 研究所の諸行事で学んだこと

研究所の諸行事で、多くの事を学ばせて頂きました。外山滋比古の小冊子を資料に、毎週水曜日に行われる「大切な話」では、自分自身の今までの考えを反省する良い機会となり、また前向きに物の考えができるようになりました。毎週金曜日に行われる「3分間スピーチ」では緊張の連続でした。テーマを考え、3分でスピーチをまとめて話すことは最初は難しくてとまどいがありましたが、回数を重ねていくうちに3分で話せるようになりました。「大切な話」「3分間スピーチ」のおかげで大勢の前で落ち着いて、自分の考えが話せるようになりました。私にとって一番大きな収穫になりました。

所外研修は11カ所で学ばせて頂きました。OCC本社でのコンピューター研修では最新式のコンピューターで研修を受けました。それが刺激となり、ワープロの練習を始めました。将来はパソコンでインターネット通信へと夢を抱いています。那覇家庭裁判所の研修もありました。家裁の使命は「家庭に幸せを、家庭に平和を」モットーにしていると所員から話がありました。今まで家裁に対しては、固いイメージがありましたので、温かいものを感じると同時にホッと致しました。

県外研修（東北、関東地方）は石川啄木の生誕地である盛岡に行きました。啄木の作品に触れ、生きた教材研究となりました。野口英世記念館では英世の偉大さに触れることができました。初めて見る「ふきのとう」、「雪」、「水芭蕉」、「白樺並木」、「春の小川」、「桜並木」等、春の自然に出会い、感動致しました。この感動を、10月に会うクラスの子どもたちに話したいと思います。

研修期間で一番苦しかったのは、検証保育でした。宮城恒彦所長をはじめ、野原廣子指導主事、上原幸得指導主事の御指導を仰ぎ、無事終了したときは感動の気持ちで胸が一杯でした。貴重な体験をさせて頂きました。

2 感謝

宮城所長をはじめ、野原指導主事、上原指導主事には特にお世話になりました。「論文のまとめ方」「教師の心構え」「文章の書き方」「発表の仕方」「人生の生き方」等ユーモアを交えて、時には厳しく御指導をしてくださいました。文章を書くのは得意ではありませんでしたが、現在は抵抗なく書けるようになりました。

県教育庁義務教育課の金城恵子指導主事には研究を進めるにあたって御指導を頂きました。玉寄長市課長をはじめ南部振興会の職員の皆様、「かぎやで風」を御指導してくださった大城節子さん、かげながら私達を支えてくださった仲地紀子さん、山城さやかさん、私達と共に行動し、良いアドバイスをくださった適応教室の山城直三先生、皆様のお力添えて良い研修ができました。ありがとうございました。

この研修の機会を与えてくださった長嶺幼稚園の大城憲助園長をはじめ職員の皆様、また豊見城村教育委員会に深く感謝致します。落ち込んでいたとき、さりげなく励ましてくれた研究員の仲間たち、大勢の方々の御支援のおかげで6カ月の研修が無事に終了致しました。心機一転し、10月には職場に戻ります。この貴重な研修を職場に生かすように頑張りたいと思います。



研修を振り返って

佐敷町立佐敷幼稚園教頭 玉 城 美慧子

入所式

幼稚園現場を離れて半年間研究をする為の入所式。日頃幼、小、中の連携がいかに大切かを感じていた私にとってお互いの学校現場を理解する為の良きチャンスであるとの思いから不安よりも期待感で胸一杯でありました。

九人の研究員と半年間心合わせながら共に生活していくことを考えると非常に親しみを感じると同時にこの「出会い」を大切にしていきたいと思いました。

研究員

一人一人がユニークで個性の違う九人の研究員でした。プラス志向で物事を捉え、お互いがお互いを思い、いつも温かい雰囲気包まれていました。

三時のおやつの中には、幼児、児童や家庭生活のこと等、会話が楽しく爆笑の連続でありました。しかし、そのような雰囲気の中でも報告書を書き上げる段階になると文章を思い通りにまとめることができず、産みの苦しみを味わい、焦ることもありました。その時にはお互い励まし、支え合いながら研究活動に取り組むことができました。研究員と出会えたことは、私の人生にとって大きな財産になるものと思います。

ミーティング

連絡事項を話し合った後、歌を歌います。選曲は当日の日直に任されています。朝のスタートが歌で始まるのでお互いの心が弾み研究生活がより楽しくできました。「芭蕉布」はパートに分かれて練習をしてきましたが、違うパートに引きずられる為、歌い終えた後は爆笑又爆笑の連続でありました。努力のかいあって現在はきれいな二部合唱ができるまでになっています。

ちなみに「島尻教育研究所逍遙歌」と「芭蕉布」は私の好きな曲の中に加えられています。

三分間スピーチ

研究員や主事、山城先生の率直な意見を聞きながら、物事を捉える大きさや深さ又その人柄に触れ私自身をみつめる良い機会となりました。最後にみんなの意見をまとめてくださる所長の経験豊かな奥の深い話は学ぶことが多く充実した三分間スピーチでありました。

所長、両主事、指導講師

宮城恒彦所長は厳しさの中にも細やかな心配りをしてくださり、教師としての心構えや責任と誇りを教えてくださいました。野原廣子、上原幸得両主事から研究に対する姿勢と懇切丁寧な助言や温かい励ましの言葉をいただきました。

金城恵子指導講師は何度も研究所に足を運んでくださり研究の方向性を示してくださいました。

このように四名の良き指導者に恵まれ、当初の研究目標を私なりに達成することができました。至れり尽くせりの温かいご配慮に感謝申し上げます。

おわりに

半年の研修があっというまに過ぎて行きました。所外研修、クラブ活動、本土研修等、笑いが絶えない毎日でした。島尻教育研究所での生活は生涯忘れられないこととなり、今後教師として生きていく為のエネルギーが私の中に蓄えられたような気がしております。

研修期間中多くの方々のお世話になりました。毎朝掃除活動に参加し、絶えず思いやりの心をもって支えてくださいました玉寄長市課長、山城直三先生、南部振興会の皆様を始め、事務の仲地紀子さん、山城さやかさん多くの方々の温かい心に触れ、充実した半年を過ごすことができました。感謝申し上げます。

最後になりましたが研究の機会を与えてくださいました佐敷町教育委員会、快く研修に送り出してくださいました當山徳有園長、留守を引き受けてくださいました職場の先生方に感謝申し上げます。研究所で学んだことを今後現場で生かしていきたいと思ひます。



記 録 の 重 み

糸満市立喜屋武小学校教諭 金 城 桂 子

私の鞆の中に、小さなメモ用の手帳が入っています。宮城所長がある日、「人の記憶はさだかでない。忘れないためには、メモをとることである。」そうおっしゃって、胸のポケットから、小さな手帳を取り出し見せてくださいました。何げなく見たり、聞いたりしたことでも、心に残ったことは、絶えずメモをとるということでした。

研修期間中、実に多くのことを学び、充実した日々を過ごすことができましたが、最も心に残っているのが、記録の大切さです。とにかく入所して驚いたことは、記録の多いことでした。すべての研修を輪番制で記録しなければならず、記録にあたった日は、一日が記録に始まり、記録で終わることもめずらしくありませんでした。それどころか、なかなか文がまとまらず、頭をかかえ家に持ち帰ったことも何度かありました。いかに普段、書き慣れていないか痛切に感じたものです。しかし、記録を通して書くことの難しさ、それ以上に書くことの大切さを身をもって知ることができました。六カ月間で、個人用の記録ノートは、三冊になり、研修員が輪番で書いた研修記録簿は、実に二百ページ以上の分厚いものとなっています。1ページごとに教師として、親として、更に人としての教えが書き留められており、きっとこれから先、何度もこの記録簿を開き、読み返すことと思います。

4月の県外研修でも記録の大切さを教えられました。三泊四日の東北地方の旅は、残雪の残る北国の自然のすばらしさに魅了され、味わい深いものでした。これまで旅行が終わると、写真や訪れた先々のパンフレットなどをアルバムに貼るだけで済ましていました。今回の旅は、見て回った観光地や味わった郷土料理などのメモをまめに書いていきました。書くことによって、今まで以上に、その地のすばらしさに、触れることができたように感じました。メモをもとに、紀行文を書いたことで、もう一度楽しかった旅に浸ることができ、印象も強くなりました。研究員がそれぞれの思いで書いた紀行文は個性が感じられ、楽しく読み返しています。これまでと違う旅になったのも、記録のおかげだと思います。

私の研究内容も書くことと深い関係がありました。児童の思考力を育てるためにも、大いに書く活動を、取り入れたいと思います。また、私自身も記録の大切さを学校現場で生かしていくつもりです。生活の中で、児童についての新しい発見や小さな変容等も書き留め、指導に役立てたいと考えています。記録は更に、教師としての自分を見つめる機会にもなり、日々の記録の習慣化を図っていききたいと思います。

入所当初は、単純に本が読めると喜んでいたのですが、個人研究を深めるだけでなく、講話あり、所外研修あり、更に大切な話、3分間スピーチ等とそれこそ盛り沢山の研修を受けることができました。そして、所長の教えの一つである「三人行えば必ず我師あり」が過ごしていく日々の中で、いかに大切なことであるかが分かりました。六カ月の間に、所長をはじめ、野原・上原両指導主事、指導講師の先生方、管内でご活躍なさっている先生方との出会いがありました。豊かな経験やお人柄がにじみでたご講話は、教師としての示唆や、人としての生き方を教えられたものです。苦楽を共にした仲間からは、本音で語り合い、多様な考え方があることを教えられました。このように、人との出会いから学ぶことが多く、教師として、親として、物の見方、考え方を広げていくことができました。これからも「人に学ぶ」ことを忘れずにいたいと思います。

最後になりましたが、このような研修の機会を与えてくださった全ての方々に感謝いたします。この半年間で自分を見つめ、人に学び、教師としての仕事に新たな夢をもつことができました。子供たちのために、良き実践者をめざし、これからも学び続けたいと思います。ありがとうございました。



研修に 夢と笑いと やさしさと

東風平町立東風平小学校教諭 佐久本 広 志

厳しく楽しかった6カ月間。振り返ると様々な思いが脳裏をよぎります。教職6年目にして経験した貴重な体験の一端を私の拙い川柳を通して紹介したいと思います。

『学び舎に 歌声響く 逍遥歌』

毎日のミーティングでは、様々なジャンルの歌を歌いました。「芭蕉布」「エーデルワイス」「野に咲く花のように」など、文部省唱歌から手話ソングまで幅広く軽やかな歌声は、一日のスタートにふさわしいご配慮だったと思います。

その中でも、所長直々に作詞なされ、翔南小学校の親泊明美先生の作曲した「島尻教育研究所逍遥歌」は、我々第4期研究員にとって、とても思い出深い一曲となりました。研究所裏を流れる報得川、はるかに望む八重瀬岳と、まわりの風景を見事にとらえ、研修のよさや厳しさをちりばめた詞は、研究生活を適格に言い表したすばらしいでき上がりとなりました。いつの日か、どこかで、このメロディーを耳にする時、懐かしい半年間を思い出すことでしょう。

『大切な 話が胸に つきささる』

水曜日は、新聞紙上でも紹介された「大切な話」が行われました。

外山滋比古氏の『学校で出来ること出来ないこと』から話題を引用して、学校、家庭における教育に関する問題に対して、一人一人コメントを発表します。豊富な話題もさることながら、研究員の様々な考えや両指導主事の適切な答え、そして、最後に所長の総評をいただくことで、とても勉強になりました。教師のあり方、家庭のあり方、親のあり方など、これまでの自分の教師生活を振り返り、グサリと胸につきささる言葉がいくつもありました。どれも、すぐに現場に持ち帰って使えるような内容のものばかりでしたが、その中でも一番勉強になったのは、「夫婦のあり方」でした。

『厳しさに 身も細るかな 検証授業』

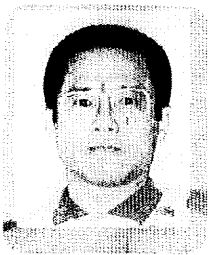
充実した研修期間中で、一番厳しかった時期は、検証授業の集中した6月だったのではないかと思います。目の前の授業に準備に追われつつも、ミーティング、講話、記録、お礼状書きなど、厳しい所内の日程をこなさなければなりません。その期間は、みんなわき目もふらずに集中。教師はやっぱり授業で勝負。そんな意気込みを感じさせる6月でした。

『待望の 長女誕生 真菜むすめ』

私ごとですが、忙しい検証授業の終わった6月末に女の子を授かりました。今か、今かと待ち焦がれた後の待望の女の子に、所長はじめ、たくさんの皆様の祝福を受けました。「真菜」と名づけましたが、将来、物心がついた頃、「あなたは、研修中に生まれたんだよ。」と、伝えたいと思います。

『研修に 夢と笑いと やさしさと』

厳しくとも病気ひとつせず、楽しく、充実した半年間を送ることができたのは、第4期の愉快的な仲間と宮城恒彦所長を初め、野原廣子指導主事、上原幸得指導主事というすばらしいメンバーに恵まれたからだだと思います。また、指導講師として忙しい中、研究の指導をしていただいた座安政侑先生、貴重な講話をしていただいた校長先生方、所外研修でお世話になった皆様、快く研修に送っていただいた東風平小学校の比嘉清忠校長他、諸先生方、期間中お世話になった多くの皆様に感謝し、現場に戻った後、研究所で学んだことを生かしていきたいと思います。どうもありがとうございました。



出会うことの大切さ

糸満市立西崎小学校教諭 徳村政宜

今回、南部広域行政組合島尻教育研究所第4期教育研究員として半年間の研修の機会に出会うことができました。幼稚園から2名、小学校から6名、中学校から1名の計9名（男2名、女7名）の教育研究員との出会いもありました。

研究員のお互いの顔も名前もまだしっかり覚えていない入所式の当日、宮城恒彦所長から次の言葉が書かれた色紙を頂きました。

「三人行けば必ず我が師有り」

【人が三人そろったらいろいろな考え方があり、その中には必ず師となる人がいて自分の学ぶべきものがある】の意味だそうです。

島尻教育研究所の職員、指導講師、講話をなさる先生方、南部振興会の方々、そして研究員一人一人との出会いを大切にしたいとの所長の配慮に感じ入りました。

さて、私はこの半年間の研修でいろいろな人、できごと、場面に出会いました。

厳しさとやさしさの心で接して下さった宮城恒彦所長には、常に相手を思いやる心の大切さを教えられました。教師として、人間としてどうあるべきかも学ぶことができました。特に、所長手作りの「核印」「小冊子」を頂いた時にはとても感動致しました。また、上原幸得指導主事は、毎朝の清掃活動にすがすがしく参加される中で、研究員一人一人の小さな悩みや心の不安を聞いてくれました。すぐくまじめな人柄で、教育に対する真剣さを教えてくださいました。野原廣子指導主事は、研究所のお部屋の装飾に気を配っておられました。先生の感性豊かな心を知りました。東北の県外研修では、人と人、人と自然の出会いの大切さを教えてくれました。さらに適応指導教室担当の山城直三先生との出会いもありました。児童・生徒とやさしく接することの大切さを教えられました。それから、指導講師の糸満市教育委員会の糸満旦男学校教育課長には、直接研究の方向性について指導を仰ぎました。学級経営について豊かな経験をお持ちの先生で研究員の考えを適切にとらえ、共に研究する気持ちを大切にしながらご指導くださいました。先生との出会いで学級経営がいかに大切かを知りました。

出会いを大切にしながら研究を進めていく中で、研究が思い通りに進まず焦ることもあり、さらに体調を崩してどうなるのか心配する日々もありました。そんなときは、研究員一人一人の温かい心が支えとなりました。研究のつらさや悩みを分かち合い、そして励まし合ってきた研究員との出会いも忘れません。研究員の仲間들皆さんからは温かい心を学びました。

さらに、思い出の県外研修では、学校現場では滅多に体験できない日本の四季折々を体験しようという目的で、4月23日から4月26日（3泊4日）の日程で東北（岩手県、福島県、栃木県）の旅をしました。生まれてはじめて新幹線に乗り、生まれてはじめて雪を見ました。わずか1時間で満開に咲いた桜の花を見、そして降り積もった雪で、白一色の銀世界にひたることもできました。一度に春と冬を体験したような気持ちになり、大きな感動を覚えました。その県外研修ではまさしく「百聞は一見にしかず」の言葉通り、実際に体験することの素晴らしさを知りました。

この半年間の研修生活でよき指導者に恵まれたこと、素晴らしい研究員の仲間と出会えたおかげで、研究の入り口を見つけました。とてもうれしく思います。10月からの現場では、研究所で得たものを糧にして、今後の実践に生かしていきたいと思います。このような貴重な研修の機会を与えてくださった島尻教育研究所の宮城恒彦所長はじめ糸満市教育委員会、南部振興会、関係各位、また快く研修に送り出してくださいました西崎小学校の町田宗一校長および学校職員に厚くお礼申し上げます。

おわりに研修期間中、私を支えてくださった皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。



研修を振り返って

糸満市立高嶺小学校教諭 大城典子

不安と緊張の島尻教育研究所の門をくぐった4月1日、すぐに、色紙できれいに飾られた「入所おめでとう」の横幕が目につきました。テーブルの上には、激励の言葉、本棚の上には、可憐な花があり、温かい心づかいに感激したものです。また、ミーティングでの宮城恒彦所長の言葉にも感激致しました。「教える立場から学ぶ側への発想の転換をすること。三人行けば必ず我が師有り。仲間から良いところを盗み取り、自己の変容と成長の糧にしてほしい。6か月間で、研究の入り口を探すことができればよい。これまでについた錆を落とし細身になってほしい。緩急のある雰囲気を自分から進んで作ろう。」所長さんの一言一言は、私の心に響き、身の引き締まる思いが致しました。厳しさの中にも温かみのある人柄に触れ、入所までに抱いていた不安は、しだいに薄れ、与えられた6か月間で、少しでも自分を磨いていきたいという希望に変わりました。

この短い期間に所内研修では、宮城恒彦所長はじめ、野原廣子指導主事、上原幸得指導主事、指導講師、校長先生方の講話を聞いたり、西崎養護学校、県立盲学校等の各種学校の訪問をしたり、家庭裁判所、宇宙開発事業団、中央児童相談所等の施設の参観をしたりしました。学校現場にいては、なかなかできない研修を数多く受けることができました。様々な研修を通してこれまでについた錆が少しずつとれていったように思います。広い視野を物事を見つめ、教育に携わっていくことの大切さ、児童を伸ばし育てていくための教師の心構えを学ぶことができました。教師の発言、態度、姿勢が、いかに児童へ与える影響が大きいことを知り、責任の重大さをあらためて感じました。

これまで、時間がないと避けてきたパソコンも、必要に迫られ教えてもらいながら練習することができました。自分では、一生懸命打ったつもりでも、印刷してみると間違いが多く、あせってとまうこともありました。でも、少しの上達でも誉め、励まして下さった皆様のおかげでどうにか報告書も仕上げることができました。何事もやる気さえあればできるようになるということを体験を通して学びました。パソコンに取り組めたのも研究所に入所したおかげだと感謝しております。

入所して一番よかったことは、これまでの自分自身の教職生活、家庭生活を振り返ることができたことです。「大切な話」「3分間スピーチ」何気ない会話の中から、宮城所長、野原指導主事、上原指導主事、研究員のいろいろな体験談や考え方を聞き、今までの自分を反省することができました。これまで、教師として、母親として、妻としてのあり方を語り合ったり、真剣に考えたりすることがあまりなかっただけに自分を見つめ直すことのできたこの6か月間は、わたしにとって貴重なものになりました。

なによりもうれしいことは、すばらしい仲間に出会えたことです。笑い声の絶えない明るい研究室で、厳しい研究も、お互いに励まし合いながら、無事に乗り切って楽しく充実した日々を過ごすことができました。これまでに、築いた絆をこれからも大切にしていきたいと思います。

これまで、時には厳しく、時にはやさしく接し、懇切丁寧な指導・助言して下さいました宮城所長、大城守校長先生、野原指導主事、上原指導主事、6か月間大変お世話になりました。先生方のおかげで研究テーマに沿った研究を自分なりにまとめることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。研修の成果が生かせるように、努力していきたいです。



自分自身を見つめ直す

糸満市立光洋小学校教諭 桃 原 アサ子

研究所での研修も終わりに近づきました。入所した日が遠い日に思われるのに、楽しく充実した半年間は短く感じられます。この研修期間、多くの人との出会い、研修旅行や所外研修を通して、いろいろなことを学び、これまでの自分を見つめ直すよい機会となりました。

研修旅行

日本の四季のすばらしさを実感しました。夏場の旅行は何度かありましたが、春の旅行は初めてでした。山へ登ると見渡す限りの雪野原、山を下りると満開の桜やタンポポと一日にして別世界の景色に触れることができたのです。教科書に紹介されているふきのとうの芽、舞い散る桜の花びらを目のあたりにして、春の感動に触れることのできた幸運を感じました。

大切な話、三分間スピーチ

大切な話や三分間スピーチでの意見交換は、私にとって「研究テーマ」に匹敵する研修内容でした。子育て、教師としての態度や社会的な問題等、自らを振り返る機会となり、私にとっては反省することばかりでした。他の研究員のいろいろな体験や実践を通しての考えを聞き、その人柄を感じるとともに、自分自身の視野の狭さ、ひとりよがりの言動が多かったことを感じ、身の縮む思いがしました。謙虚な態度、周りの人や子どもの声に耳を傾けること、全体的な視野にたって物事を見て発言すること、学び続ける大切さを痛感しました。

研究テーマに向けて

学校不適応児の指導に困難を感じ、その援助のあり方を探るのが私の研究内容でした。いろいろ調べていくうちに、児童への対応にあっては教師の態度や人間性が大きくかかわることを感じました。特別な手立てや技術というよりも、児童の声をよく聴くこと、長い目で温かく見守る態度が重要だと考えるようになりました。教え込むことに一生懸命になって叱咤激励したり、自分の話に夢中になり人の話が耳に入らなかったりする私にとって、その実践は「自己改革を図ること」にほかなりません。傾聴することの大切さに気づいたことが、今回の研修の最大の収穫といえます。

出会いから学ぶ

「どんな人たちと過ごすのだろう」と不安を抱きながら、研究所の扉を開けた4月1日がなつかしく思い出されます。「自分の教育活動を見つめ直してみよう。」と思い立って来たものの、私のようなものが来て良かったのかなという思いと異動の時期に重なったことで、落ち着かない気持ちでした。

研究員とは一週間もたたないうちに打ち解けることができました。笑いの絶えない毎日で、入所時の不安も吹っ飛び、楽しい毎日を過ごすことができました。話し合いの時間や休憩時のおしゃべりタイムで、すばらしい実践や貴重な体験、いろいろなものの見方、考え方を学びました。

初めてお会いする宮城所長は、厳しくて気軽に話せそうにないというイメージでしたが、いろいろお話を聞くうちに、気さくで温かい人柄を感じました。学ぶことへの励まし、人として教師として、特に女性の気をつけることとして多くの示唆を受けました。また、手作りの刻印や色紙等、これまでもらったことのない心のこもった贈り物にとっても感動しました。

指導主事の野原先生、上原先生をはじめ、指導講師の安次嶺先生、講話をして下さった講師の先生方には、いろいろな心くばりを頂き、研究テーマについてだけでなく、教師、親としてのあり方についても多くのことを学び、研究を進めることができました。

すばらしい出会いに感謝し、研究所で学んだことを実践に生かすべく、更に努力したいと思います。



My Learning Days

豊見城村立豊見城中学校教諭 金城正子

研修を終えるにあたって、半年間私の心の中に残った想いの数々を、星野富弘さんの詩に合わせて表したいと思います。これまで生徒の前に立っていた日々から、一転して「聞く立場」に変わった今年の春。

花が小さく見える日、
私のこころも小さいと思う。
花の大きく見える日、
私のこころは広いと思う。

新しい環境に溶け込むまでは、まだまだ視野も狭く、研究所の草花に目を止めるゆとりもありませんでした。

研究所の生活は、朝の清掃からスタートします。中でも駐車場の掃き掃除は私達研究員にとって、唯一体を動かせるチャンスです。真面目な顔で一生懸命掃除をしている時、振興会のみなさんからの、

さり気ない一言が私達の緊張をほぐし、その日一日を気持ち良いものにしてくださいました。鳥の鳴き声や木々の名前などが話題になり、朝のわずか10分間の積み重ねが、次第に私の気持ちも和らげていった感じがします。

待つこと、耐えること、花の蕾、
……みんな似ている。
みんな明るい方を向いている。

週三回の朝のミーティングでは、宮城所長の「“新”に対する気持ち」の御講話からスタートし、大切な話、3分間スピーチ等、本当にたくさんのお話を聞くチャンスに恵まれました。

各自研究テーマが決まってからは、自分の考えをまとめるまでに、山あり谷ありの日々がありました。そんな時にも、一人一人の支え

となったのは、宮城所長やお二人の主事のお話をはじめとし、研究員同志の会話でした。宮城所長は主に、「小さなことに感動する心」、「生きるということ」や「人間的な触れ合い」、「自然から学ぶ」こと等を、話してくださいました。「常に狭間を埋められる人になる」（気付く人になる）や、「賢ければ、それだけ後から人を押し上げ、必要な時に知恵を出す」（和のつくり）について語ってくださった野原主事。真剣に私達研究員の意見に耳を傾け、いつも励ましのお言葉をかけてくださった上原主事。今考えてみるとどのお話も、私達が一番大変な時に方向性（前向きの姿勢）を示してくださったのではないかと思います。これまで、「話しを聞く」チャンスが無かっただけに、人の話というものが、どれだけ自分の気持ちに浸透するものかを感じました。

私達研究員にとって、一番忘れられない思い出となったのは、入所後間もない研修旅行（東北の旅）で

棚の上の鳩ぐるまが、
私を見ている。
思い出がやさしく見ている。

す。出発前にはまだまだ緊張感もありましたが、4泊5日の間にはそれぞれの良さを発見し、とても充実した時間を過ごすことができました。旅行後にみんなで協力した研修旅行記には、その時の様子が一杯詰まっています。きっと何年後には、今の何倍もの懐かしさに膨れ上がっていることでしょう。その時のために、大事な宝物

として残しておきたいと思います。研究発表と修了式を間近に控え、研究所で過ごした日々のことを思い出すと、本当に多くの方々との出会いと、たくさんのチャンスがありました。自分の研究テーマを深めることはもちろんのこと、それ以外にも、気持ちにゆとりを持つことで、以前よりも視野が広がった気がします。これまで当たり前のように見過ごしていたことに、大きな意味を見いだしたり、学校現場以外の話題にも触れられたことが大きな財産でした。それらのことを通して、自分自身を振り返ることができたと思います。最後に、島尻教育研究所での研究のチャンスをくださった全ての方々に、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



集団不適應の背景といじめへの対応策

前登校拒否適応指導学級文部省

講 師 倉 淵 泰 佑

平成8年6月27日南部総合福祉センターにて、島尻教育研究所主催の教育講演会を開催致しました。講師には、その道で豊富な実績をあげておられる前登校拒否適応指導学級文部省講師の倉淵泰佑先生をお招き致しました。島尻教育事務所の共催と、島尻市町村教育長会、島尻地区小中学校校長会、島尻地区小中学校教頭会、島尻地区公立幼稚園会の後援をいただき、572人の参加者を得て、盛会裏に終了することができました。

生徒指導の問題は、一人一人の子供達を幸せに育てるために大切な問題です。教育関係の多数の参加者から、「とても、参考になりました。」との声が寄せられました。

講演の中から大切な部分を下記に抜粋して掲載致しました。

1. いじめられる子の特徴

行 動 面	◎集団行動になじめない ・動作がのろい ・おどおどしている ・友人が少なく孤立している ・人に迷惑をかける ・すぐだれかにたやろうとする ◎自己主張することが少ない ・口下手で意思表示がうまくできない ・すぐ泣く ◎身辺処理が下手である ・不潔である（不潔な感じがする） ・整理整頓が下手である
性 格	◎自己中心的である ・自分勝手である ・約束を守らない ・やたら自慢する ・わがままである ・自己顕示欲が強い ・嘘をつく ◎小心、神経質である ・気が弱い ・泣き虫 ・びくびくしやすい ・内気である ・陰気な感じで暗い子 ・おとなしく無口である ・強い劣等感を持っている ・自己主張できない ◎固執性が強い ・物事にいつまでもこだわる ・復讐心が強い ・理屈をいう
学 習	◎学力不振または遅進である ・理解力が劣る ・運動面が劣る ・発表力が劣る ・学習意欲がない ◎忘れ物が多い ・宿題 ・学用品 ・提出物 ◎集団のレベルより優れている、または特異である。 ・勉強ばかりしている ・自慢する（所持品・知識量） ・ブリッ子 ・いつも先生に誉められようとする ・テレビやマンガの話が通じない
身 体 面	◎体力、体格、容貌が劣っている ◎身体に障害がある ◎身体、服装が不潔である
家 庭 環 境	◎基本的なしつけが身についていない ◎過保護、カギっ子、親が友達と遊ばせない

2. いじめられる子の学校での様子

1. 授業中の発表が減る。(分かっていても・目線が不安定)
2. 授業中下を向き、視線を合わそうとしない。(教師の視線)
3. 授業中ぼんやりしている。顔色も悪い。(集中力低下)
4. 文字(筆圧低下)絵(色彩不安定・低下)が乱雑になる。
5. その子が何か言うと、学級のムードがしらける。
6. 周囲の友達に異常に気をつかう。(オドオドしている)
7. 授業時間に遅れて教室に入ってくる。(友達が笑う)
8. 発言すると一斉にヤジる。(学級が荒れてる)
9. 休み時間に一人でボツとしている。(弁当は一人)
10. 始業時に机の上が乱れている。(落書きがある)
11. 忘れ物が急に多くなる。(学習用具が無くなる)
12. 学習意欲が低下している。(学業成績低下)
13. プロレスごっこ(裁判)の後、しょんぼりしている。
14. プリント配りや、給食当番をさせてもらえない。(その反対)
15. 広い場所を一人で掃除(跡片付け)している。
16. 保健室(職員室)へよく行く。教師の後追い(退行現象)
17. 派手に騒いだり、教師の注目を引く顕示的態度を示す。
18. 遅刻や早退、欠席が目立つようになる。(出席簿)
19. クラブ活動(部活)をサボる。(訳の分からない言い訳)
20. 遠足や校外学習・見学を敬遠する。(反対)
21. どんな遊びにも、誘われると我慢して皆についていく。
22. 友達の使い走りをしている。
23. 友達に悪口を言われても、反抗しないで愛想笑いをする。
24. 自分より弱いものには必要以上に威張る。
25. 友達が、いじめられている(脅迫)と訴える。
26. 物(お金)の貸し借りが頻繁になる。
27. 神経症・心身症・登校拒否・自殺。

3. 家庭での様子

1. 何となく、子供の態度がおかしい。
2. 表情が暗くなり沈みがち。（下校後ぐったりと座り込む）
3. 学校のことを話したがらなくなる。（聞くと嫌がる）
4. オドオドして何かにおびえた感じがする。（目がうつろ）
5. 友達が遊びにこなくなる。（電話も止まる）
6. 外へ出て遊ぼうとしない。
7. 衣服が破れたり、汚れ方が異常になる。
8. 身体にアザや、ひっかき傷ができています。
9. 持ち物が直ぐに無くなったり、壊されたりする。（落書き）
10. 几帳面な子がだらしなくなる。（連絡・忘れ物）
11. 情緒不安定で、イライラしている日が多くなる。
12. 親や家族に意味もなく反抗する。（弟・妹をいじめる）
13. 言葉づかいが荒くなる。（おまえ・てめえ）
14. 食欲が無くなり、態度が緩慢になる。（動かない）
15. 学習意欲が低下している。勉強が手につかない。
16. 性格がひねくれてくる。（今まで見られない態度を示す）
17. 態度が内気で、小心で歯がゆい思いがすることが多くなる。
18. 家の金品をこっそり持ち出す。
19. チックや夜尿・喘息がひどくなる。
20. 脅迫的な電話が掛かってくる。
21. 自分の部屋に閉じこもる。（風呂が長くなる・入らない）
22. 家族とも口をきかなくなる。（寡黙・緘黙になる）
23. 友達がいじめられていると真剣に訴える。
24. 眠れない日が続く。うわごとを言ったり死にたいと言う。
25. 母親（家族）に急に甘えることが多くなる。（退行現象）
26. 登校時刻になると、身体の不調を訴え、登校をしぶる。
27. 学校をやめたい、転校したいと言い出す。
28. 学校に登校するが、学校にはいかないし、早退する。
29. 神経症・心身症・登校拒否・自殺。

4. いじめっ子の特徴

行 動	◎集団行動にまじめに取り組まない ・当番活動、奉仕活動などは、まじめにやらない ・グループ活動などは非協力的である ◎生活態度にけじめがない ・学校や学級のきまりを守らない ・ずる賢く要領がよい ・無責任な行動をとる ・活動的であるが、落ち着きがない ◎他人に対する配慮が不足している ・短気で行動が粗暴である ・暴力をふるいやすい ・言葉が乱暴で、きつい言葉や態度をとる ・陰険で思いやりがなく、冷淡な行動が多い ・命令や指示が多い
性 格	◎自己中心的である ・自制心がなく、だらしがない ・自分に対して甘く、他人に対して厳しい ◎自己顕示欲が強い ・英雄気どりで目立ちたがり屋である ・ボス的で負けず嫌いである ・自分の非を認めようとししない ◎無神経、情緒不安定である ・イライラしていて、落ち着きがない ・露骨な嫌悪感を示す（不満を持ちやすい） ・表と裏の二面性がある
学 習	◎学力不振である ・学習に打ち込めない ・意欲がない ・やりっぱなしが多く、きちんと最後までできない ・学用品などを粗末にする ◎学力に優れている ・頭の回転がよい ・理解力がある
身 体 面	◎体格がよい、体力・腕力がある ◎運動がよくでき、敏しょう性がある ◎服装にこだわり、格好をつけたがる
家 庭 環 境	◎放任、愛情不足である ・両親も思いやりがなく、子供のことを考えない ◎過保護、甘やかされ過ぎている ◎口うるさく厳しい→（外でうっぷんを晴らす） ◎環境が悪い ・兄弟の悪影響がみられる
そ の 他	◎今まで自分がいじめられたり、仲間はずれにされたことがある ◎自分がいじめグループに入っていないと、逆にいじめられる可能性が身近にある。

5. いじめの対応

1. いじめ形態は『仲間はずし』『とり込み』に二分できる。
2. クラス・グループには、大なり小なりのいじめはある。
3. 同級生同志のいじめは発覚しにくく、過酷になりやすい。
4. 土・日や休日期間は、いじめは校外へ移行する。
5. いじめは、遊び・ふざけと言い逃れされやすい。
6. 被害者と加害者グループを見誤らない。
7. 不審と感じたら、原因を掘り下げ、関連性を追求する。
8. その子の特異な行動は、『やらせ』と思い、背後関係を探る。
9. 加害者グループに押し切られて、事実を曖昧にしない。
10. 『いじめられていない』と否定するいじめに深刻なケースが多い。
11. 過酷ないじめほど、サインが少なく分かりにくい。
12. 中途半端な注意・指導は、いじめを潜在化させ過酷になる。
13. 暴力を伴ういじめは、目に付きにくい着衣の下が狙われる。
14. 取り巻きの中にも被害者がいるケースがある。
15. 一度や二度の注意指導で、いじめがなくなると早合点しない。
16. 現場を押さえて事を大げさにすることも、ときには効果的。
17. いじめを知ったら、四苦八苦しないで関係者に協力を求める。
18. 学校ばかりに任せないで、親も動いて事実を明確にする。
19. 『いじめは悪』、チクリと呼ばせない土壌をつくる。
20. 犯罪行為には、責任を取らせる厳しい対応を求める。
21. 加害者の親・保護者にも責任を追求させる。
22. 当事者同志での話し合いはこじれるので第三者をいれる。

6. いじめの指導上の留意点（まとめ）

- ◎ 生徒たちに『自主』・『自立』・『自治』の精神が身に付くように、民主的な学級経営を進める。

(1) 実践上のポイント

- ① 教師と生徒の間に、親和関係・信頼関係が築かれている学級にする。
- ② 教師と生徒が密接に個別に接触している学級にする。そして、生徒間の情報を詳細に把握し、一人一人の生徒の細部にわたる情報を熟知する。
- ③ 生徒が学級の諸活動に集中し、協力し、まとまる学級づくりを進める。
- ④ さ細なことでも、隠さず大らかに話し合える学級にする。
- ⑤ 教師がいつも明朗快活でいることで、明るくのびのびとした学級づくりを進める。
- ⑥ 善悪の判断が明確になされる学級にする。また、教師は率先垂範して、是々非々の立場を貫く。

(2) 指導の手だて

- ① 個別指導を強力に進める。『いじめっ子』・『いじめられっ子』の抱えている問題に即して、個

別面談（相談）を繰り返し行う。

- ② 『グループノート』・『日記』等で、父母・家族にも言えないことでも、グループの仲間には言えるという雰囲気をつくる。また、教師はそれを活用して、生徒たちの世界の情報を収集し、添え書き等で、指導助言する。
- ③ いじめの事実を隠ぺいせず、学級の中で公然化できるようにさせ、級友全員が注目し合って、いじめを防止させる。
- ④ 一人一人の生徒に、自主性・自治能力・連帯感・正義感・思いやりの心・人権尊重の心などが育つようにする。そのためには、時間を要しても根気強く指導助言を進める。
- ⑤ いじめの傍観者は、加害者と同罪という意識を持たせ、いじめを制止できる立場に導くようにする。
- ⑥ いじめの兆しを見逃さず、タイミングよく初期指導を行う。
- ⑦ いじめられっ子が、孤立無縁で泣き寝入りしている状態から脱却させ、『教師も級友を親身になって考えてくれる。』という気持ちを持たせる。
- ⑧ 親、生徒の変容を図るために、誠意を持って、家庭との連携を密接に進める。

7. いじめの指導に対する配慮点

思いやりのない態度や言葉は慎む

- ① 『やられたら、やりかえせ』、『いま忙しいから、後でこい』、『よし、いじめる奴を呼んでこい』などといった言葉は、生徒の教師に対する信頼感を損なうだけで、いじめの解決にはならない。
まず、真剣に聞くことから始め、直接解決できなくても本人自身が、何か方向をみつけだせるように支援・助言する。
- ② いじめた者を集めて叱るだけだと、かえって「告げ口」が表面に出て、さらに、いじめはひどくなることもある。大切なのは、双方の問題点を教師が的確に把握し、訴えてきた生徒の気持ち（勇気）を讃えながら、思いやりの心を育てるように心がける。
- ③ 家庭との連絡を密にすることは大切なことである。しかし、「いじめられる方にも問題はある」などといった言葉は、かえって、保護者との関係を悪化させることにつながることもある。

8. いじめに対する学級経営の配慮点

- ① いじめ行為には毅然とした態度でのぞみ、善悪のけじめ、おもいやりについて、道徳教育・学級活動・その他の時間を活用し、具体的に指導し実践に導くようにする。
- ② 学校行事への積極的な参加を通して、学級全体が団結し、教師が一体となって目標の達成に努力するように努める。
- ③ 教室の環境整備に力をいれ、破損箇所を放置したり、教室内の私物や共有物が散乱していないように心がける。※『環境は人を作る』
- ④ 学級での班活動や係活動などに全員が積極的に参加させるように配慮し人間の生き方について、一緒に考える機会を多く作るように心がける。
- ⑤ 必要に応じて、動・植物の飼育や栽培を通して、愛護の心を育てる機会を持つことも考えてみるのも一つの方法である。

ただし、この場合、生徒に任せ放しではなく、教師自らも生徒とともに行動し、積極的に動・植物を大切にすることを率先して示すことが大切である。

9. いじめられないための子育て

- 体力と気力の充実
- 精神的なたくましさ
- 自立心・忍耐力を養う
- 失敗のくやしさを成功の喜びを体験させる
- 思いやりの心を育てる（感謝の気持ち）
- 基本的な生活習慣のしつけ
- 子ども同士の遊びを大切に
- 善悪のけじめをつける
- 自己主張のできる子に

10. 大人が示す社会の模範

- 公衆道徳を守る
- 不言実行
- 生命の尊重
- 地域社会の連帯
- 心身健康で生きがいのある人生を！
- 自分の言動に責任をもつ
- 威厳のある父親
- 家族の対話（ゆとりのある生活）
- 学校と家庭の協力

島尻教育研究所逍遙歌



島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親海明美

一 報得の流にゆるやかに
朝陽に映ゆるまぎびの原
指導の道を究めんと
集いしわれら意気高し

二 辿る道程厳しけど
友の情に涙して
明日に灯ともさんと
語る仲間の声やさし

三 遙かに望む八重瀬岳
うつろふ雲は綾なして
ぬぐらへ急ぐ群れ鳥に
光ほのかな宵の星